

令和7年度第3回北広島町まちづくり総合委員会 議事録(要旨)

日時：令和8年3月23日(月) 14:30～

場所：北広島町役場本庁 201会議室

1. 開会

2. 開会あいさつ

町長

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

昨年10月に諮問した、第3次北広島町長期総合計画の策定についてご議論をいただく予定。

ただいま議会では、「DXの推進」「ゼロカーボンタウン実現に向けた取り組み」「農業分野の取り組み」「子育て支援の充実」「防災対策」「若者の定住促進対策」の6つの重点事項に取り組んでいくため、「第2次北広島町長期総合計画(改訂版)」に定める施策分野に沿った事業展開により編成した令和8年度予算案をご審議いただいている。

これからご議論いただく「第3次北広島町長期総合計画」が、令和9年度以降の町政運営の基本指針となり、「住んでみたい」「住んでよかった」「住み続けたい」と思われる魅力あるまち、未来につながるまちづくりを、更に推進できるものとなるよう期待している。

大いにご議論いただき、素晴らしい計画の策定をお願い申し上げます。

3. 委員紹介

欠席：砂田委員、東委員、上原委員、山城委員、畑中委員、川本委員、濱田委員

4. 議事

第3次北広島町長期総合計画の策定について

委員

芸北が、という分析があったと思う。我々の地域で作成した地域ビジョンをお配りいただきたい。

事務局

配布する。

委員

地域振興協議会の中で、今後芸北地域をどうしていくのかを作った。達成のために一番大きな「学び」というものを中心に人づくり、地域づくり、つながりづくりをやっていこうとしている。にぎわいづくりプランコンテストなども行い、資源や場所の整理をしている。HP に地域情報を出したりもしている。

こういう場所を普段皆さん使っているという資料になるかと思う。

委員

概要版でさらに細かい資料もあるかと思うが、要はこういうことである。10年後北広島町をどんな街にしたいか、そのために町、地域、住民がどういった取組を行うのか共有するもの。その計画に沿って実現に向けて町の事業を整理する。

現在の町民がどう思っているのかをアンケートで聞き、団体等にも目標や不足部分をうかがった。

なにかさらに聞いておきたいこと、補足したいことなどあるか。

委員

地域福祉計画の会議委員からも旧町村ごとに差があると意見があった。広島市の方からも聞かれた。いま合併して20年。北広島町1本になっているかと問われたが、実際地域差がある。

委員

一緒に北広島町でやろうとしても、どこかから別の意見や優先順位の意見がでる。別々にすることはないが、個々の特性を生かした地域づくりを明確に行っていく、得意分野を伸ばせる指針を示すべきではないか。豊平だと観光や個人の移住者（お店）など、人を呼びながら体験重視のことを軸にして、芸北は自然・アクティビティ、大朝は私立の学校や教育・アートがある、千代田は役場も病院もあってインフラが整っている。その強みを生かしてもっと明確に入れていった方がいいのではないかと感じる。

委員

行政が取り組むものと地域、個人でがんばるもの、いろんな層があると思う。北広島町が一体となって、トータルの北広島町を盛り上げていくことはみなさん疑いが無いと思うが、地域ごとに特徴・個性があることも事実。それぞれのお店で頑張っているような個人の頑張りもある。行政が担うべき役割で基礎的、インフラ的なものもある。その中でも地域ごと特に力を入れて住民でどういうことに取り組んでいくかはみんなで考えていくこと。

太い幹の部分は行政が行い、どんな枝ぶりにするかは地域の個性があって、その先は住民や事業者がどんな葉や花を付けたいか。この計画でも考えていけたらと思う。

教育や福祉などの側面もある。観光・商業・農業、いろんな切り口がある。行政としてやった方がよいということには行政ががんばってもらい、個人や事業者ががんばるところはがんばって、そのために町に支援してもらいたいことなどはあると思う。

委員

調査結果が出て、聞いて、これを基に悪かったものを良くする議論をすればいいのか、良いものをもっと伸ばす特化型にするのか、今から10年後にどうなっているべきの議論をするべきだろうか。

事務局

地域の特性を生かすことについては、これまでの計画の考え方として第2次の計画策定の際も同様の意見があり地域を活かしたものを作ったが、地域の特性を生かす取組で新町建設計画というもの、芸北の教育、豊平のスポーツ、大朝の文化芸術、千代田の都市機能など、いろんな特性を生かした計画が当時あった。またその流れを継いだ都市計画マスタープランというものが地域の特性を生かしたつくりをしている。それと整合性をとって、長期総合計画の中に地域別のものをつくるのか、別の計画に委ねるのかの判断はある。

芸北の地域ビジョンを見せていただいたが、第2次計画のときに地域の特性を生かして、地域の方々に考えてもらおうと、4地域でブランドデザインをつくってもらい、さらに細分化した地域でもつくってもらった経緯がある。途中で新型コロナなどがあり、完成しなかった。これはまた各地域で、地域が考えるビジョンというものがあり、行政との考えと擦り合わせていく考え方もあろうかと思う。

アンケートの活かし方については、アンケートによって、本町の強み弱み課題などがみえてくる。それを明確化して、強みは伸ばし、弱みは克服していくようにする。住民の意識をみながら強み弱みと取り組むべきことを整理していく。今回もその流れになるのではないか。

委員

総花的になるという話も最初にあったが、まちのブランドをつくっていくという話だと本当にこれまでの10年と変わらないものになるのかと思う。個人としては、なにか一つをもっと特化したようなブランディングをしていかないと、全国的にも人の取り合いになってくる中で、勝っていかないといけない。移住者を入れて、もっとまちをブランディングして本当に良いまちを言葉としても明確にしていく。改革をしてくしかないかと思う。

アンケートをみても全体の意見(60歳以上)と40歳以下の意見との乖離が起きていると思う。その辺をもうちょっとアンケートを基にブランディング特化型の第3次の計画にしていっての方が良いのではないか。

委員

同じように思う。徳島県神山町だと創造的過疎、岡山県西粟倉村だと百年の森というように一言で言い表せるようなところがある。なにをやっているか町民でも外部の人でもわかるし目に留まる。

アンケートでは自然が豊かと回答あったが、それが本当にまちのブランドにつながっているのか。

移住者としても芸北で住みたいという意見があっても現体制では無理だと感じている。いまから本気でやっていきたい。そういう覚悟を載せたようなものが欲しい。

委員

今日の意見を事務局が持ち帰り、コンサルタントなどと作っていくのか。

事務局

流れとしてはそうなる。今いろんな意見をいただき、アンケートも見た時点で前の10年のこともあるが、どう変えていくのかという意見をいただきたい。

改めて意見を聞いた上で、次回こうなってはどうか。というものをお示しする。

次回は4月の予定で、冊子型ではないが、重点施策か施策体系かの形に整理したい。

現状のものを見てもらってもわかるが、重点施策を設定して、住民と一緒に作っていくという色を出した計画にはなっている。もっと特化させてやっていくという可能性も考えられる。

時間が掛かりそうなら延びる可能性もあるが、いまのところ4月で議論を進めたいと考えている。

委員

ワークショップをしようと言っていたものはどのようになるか。

事務局

現状行えていない。これからの議論の進み方で検討させていただきたい。

委員

ワークショップを良い形でできたら良いと思う。ヒアリングもシートの書き込む形式だったし、アンケートでも意見を聞きとる場がないというものもあった。当然にやるべきと思う。

委員

施策分野が基本的方向性という形で、課題内容を設定し、行政がどう対応するのかをまとめていただいた。総花的に見えるのは当然で、町の仕事の先には住民がおり、それに対応していくとそう見える。それが町民としていないというのであれば、それはそれで一つの意見。いないと言った先には今支援されている人もおり、注意も必要。

最初に多様な担い手の育成・確保について見直しが必要とされており、根本的な見直しが必要なことなのでもっと力を入れることもひとつ、あきらめることもひとつ、逆にうまく進んでいるからといって、もうやらなくて良いのか、より力を入れていくべきなのか。

資料では多くはB評価で、なにかやらねばいけないと評価されている。

委員

C評価が結構ある。ひとつの問題に対して、何が悪いのか原因がわからないと直しようがない。

委員

優先順位の問題もある。これが本当に優先してやらないといけないのか見極めが必要。

担当している部局においてはやらないといけないと思っているが、町全体ではなにより大切かどうかは議論が必要になる。

委員

優先順位はたしかに大事。この場での意見が生かされるのが重要なのであれば優先順位を皆さんの意見で狭めていければよいのではないか。

委員

一つの参考になるのがアンケートだと思う。

委員

明確に進めるためにもみんなで一つ決め打ちするのも良いのではないか。

委員

その参考になるのが、重要度が高く満足度が低い施策部分なのではないかと思う。ただ、ここから離れていてももっと伸ばすべきものもあるかもしれない。

消防救急など、重要度も満足度も高いからここで十分であるなら、緊急度は下がるかもしれない。

商業の担い手に関しては、重要だが満足度が一番低く、ここを何とかするべく重点を置くなどこの会議で打ち出していくこともできると思う。地域性を考慮できるのか。町全体、地域別で異なるのか。

委員

移住の活動をしており、移住については重大な見直しは必要ないとされているが、体感としてA評価だからとして現状維持ではよくない。

委員

もっと力を入れて人に来てもらうべきという判断はありえる。

委員

私は外から人に来てもらうことが重要だと考えている。

事務局

重要度が高く、満足度が低い所はなんとかしないといけないところではあるが、重要度も満足度も高いところも引き続きやっていくところである。満足度が高く重要度が低いところでは、なぜ重要度が低いのかということも分析していないといけない。

重要施策にしていく特化の仕方もある。例えばDX、移住などにすべて特化していくというのもひとつ。ご意見いただいた上で、どうすべきか探っていないといけない。ご意見いただいたことは次の会議に向けてどう資料を作るかは考えていかないといけない。

事務局の内部資料としていたものをお示しする。

住民の皆さんが考える重要度の高いものや、町長の意向も踏まえながら考えていきたい。また、この委員会の中でもいろんな立場からご意見をいただければと思う。

委員

重点施策の検討資料を配っていただいたが、どこに焦点を当てるべきかを事務局で考えていただいているような資料。

いまのところ移住・定住の大きな課題が入っていないところには委員からの意見をききたいと考えてよいかと思う。

事務局

移住定住の評価はAとなっているが、実際にはおそらく弱い部分。その課題をうまく解決するために取り組んでいくことと、解決の邪魔にならない計画への掲載が必要なのかと思う。

いただいた意見は今日の資料も踏まえて反映していきたい。

委員

団体ヒアリングは載っていないところもあるのか。

事務局

回答いただけていないところがある。

委員

課題として「学び」の部分で地域と学校を結ぶコーディネーターは要望していきたい。

芸北に住んでいるからかもしれないが、海外の石油、紛争などで地域が断ち切られても揺るがない地域をつくっていきたい。基盤のエネルギー、水、食料、通信など根っこの部分が大事。そういう意味では北広島町は資源が豊富であり、森林や水が大事で、施策に合わせると難しいが、普段考えている所を施策に割り振っていきたい。人間関係や共助など大事にしたい。

お年寄りの知恵などの技術も残していきたい。最近「聞き書き」に取り組む動きがある。今すぐ必要か分からないが、なにかあったときに必要なこと。

移住者を増やす、子どもたちに魅力を伝えるときに大事。施策分野に入れようとしてもばらけてしまう。日々感じていることなどをどう会議で結び付けていくべきか難しい。

委員

一番大事なことは分かっているが、こう並べられると、非常に難しい。

事務局

そういった意見をどんどん言っていただきたい。型にはめていくのは我々の仕事。難しく考えていただかなくても良いと思っている。

参考までに分野別に分類をして、それぞれの方向性を整理しているが、計画のつくりとして、基本的な構想部分、何を狙っているのかが頭にくる。次に重点施策などもくる。そこにいま言われたことを反映する段階がある。いまの思いを分野別に五月雨式に入れていくのは難しいので、基本構想や重点の方向性などの括りでいれるような段階的整理になると思う。

委員

資料2の2Pの中間支援組織の不在とあるが、重要になってくると感じる。その存在について教えてほしい。

委員

やりたいことがあるときに、補助金やだれかと協働でやることなども含めて間に入って旗を振ってもらわないと負担が大きい。こういうことはお金にもならないし、いっぱいいっぱいになる。一緒に伴走してくれる組織が町内にない。

委員

“はなえー”のようなものかと思う。行政と個人の間で動いてもらえる明確なものが作れば、行政と民間の間で強みを生かせるのではないか。

委員

観光協会と“はなえー”が合併する。要望として専門家のコーディネーターを入れたい。要望をしている。

事務局

イメージは現状では“はなえー”という地域商社であるが、いま観光分野も取り入れている。もともとの構想は観光要素やスポーツなどいろんな分野を取り込んだ中間支援組織、行政とはひとつ離れて小回りの利く組織を充実しようとしている。これが機能すればある程度のことに対応できるのではないかと考えている。

また、一社の地域エネルギー会社も立ち上げて、エネルギー分野から子育て支援のところに入りこんでいこうとしている。皆さん方に周知理解してもらいながら進めていく。

委員

昔はそういうことを行政がやってくれた。ところが行財政改革の中で、行き届かないところが出てきている。行政が無駄だというのは簡単だが、支援してほしいところまで小回りが利かなくなった。専門的な知識が必要なところも行政が手を引いてしまい、なにかやろうとしても難しくくてできない。ここを行政ではない形で手助けしてくれるのが中間支援組織となるのであろう。

住民がそういう形を望んでいるので、行政にやってくれとはならないが、現実的には必要。

分野ごとに人や組織があってもよいと思う。そういったことが手厚くなれば行政と一体となって住民の満足度も充実していくのかと思う。

委員

中間支援組織について、お金が必要になると思う。総務省がアドバイザーを派遣してくれることもある。予算もでる。福山で移住先を探している人に北広島町を勧めたが、子どもがいると子育て支援が手厚いところに目が行くようだ。全体をみると何かから始めてよいかわからないので、子育てが重要度が高いのであれば大事である。未来を作っていく子どもたちに投資ができると良い。渋谷区では中学校が選べる。中には英語に特化した学校があり、人気だった。親がこういう教育を受けさせたいというものが提供できれば引越してでも来ると思う。

10年後についてはすごく難しい。今A Iがすごくて、10年後には社会が変わっていると思う。ただA Iの世界になったら、人がやる部分をA Iがやってくれて、みんな地方に移住すると思う。人は自然や空気などが良いと思えるところに移住する。自然を保全することは人の手でしかできない。そういうことを人が積極的にやっていく。農業やりたい経営者は多い。10年後は全く違う世界になっている。そういうことも踏まえて10年計画を考えたらよいと思う。

事務局

10年の計画で10年後は本当にわからない。計画立てて、そのままではなく5年で見直しをする。現状をみて検証するのは当然で、毎年の検証もやっている。またご意見をいただきながらやるべきことをやっていく。

委員

町内の各地域それぞれとても良い所だと思う、なんとなくなぜ一つになっていないのかと思っていた。今はそれぞれの良い所をどんどん盛り上げ、全体として北広島町とみせることが良い見せ方なんだと思う。

委員

重点施策として出ているものは、まちの痛みが出ている対策していくべき部分という考え方と、まちが盛り上がる特徴があるところを選ぶという考え方がある。芸北では「学び」というコンセプトの中でやっており、芸北分校は生徒の7割くらいが県外からくるという話で、瀬戸内海の高校でも、経営が学べるので県外からすごく人が来ている。やはり特徴があると人は集まる。

痛みに対応することと、特徴を出していく話は、分けて考えないと進まないと思う。今回は横断的な北広島町全体の話なので、対処が必要な部分に焦点がいくのはもっともなことだと思うし、ブランディングについては分けて考えたい。

芸北分校に行った時に地域の文化祭を神楽と一緒にしており、学校というより地域活性化の拠点のようになっていた。やはり「学び」というところで、地域が協力してくれ、人が集まるのではないかと思う。

今後一つは対処が必要な部分と、まちがこう思われたいという部分は分けてやったほうがうまくいくと思う。

委員

農業の話になると、多様な担い手の育成確保などあると思う。千代田管内の営農法人協議会総会ではみんな70代以上の方ばかりで、5年後にこの法人がどうなっているのか心配されているのが現状。

農協の施設も古くなっているし、高齢化も進んでおり、本当に近く訪れる問題になっている。

優先度の問題があると思うが、美しい田園風景をそういう方が守っていると思うと、優先度の付け方が難しいと感じた。

委員

悲しいが、担い手不足が全ての項目に入っている。Uターンとして、ここで育った人に帰ってきてもらうことも重要だと感じた。

全てに跨っている担い手不足という大きな項目をつくってしまうことも重要かと思う。

委員

人が賑わっていないとまちも元気じゃないので、移住のことにも力を入れたい。部活動の地域移行というときに、ずっと検討中であったのが住民では見えず、サッカーができる豊平から大朝の学校に行くことになった。

子どもの成長は早いので10年後だと本当に遅いし、先が見えなくて不安な人も多い。豊平のテニスチームももっと地域を巻き込んで応援に行くなど、本気で取り組んだ方が良いと思う。

Uターンで帰ってきたいまちにしないといけない。

委員

長期総合計画をあとで見た時に、作った人や地域の声などが反映されているのかを大切にしたい。子育て中の人の声もしっかり反映されるような取組があると良いかと思う。計画ができて長期総合計画が自分事に活用してもらえるように、「町民みんなでつくったよね」と言えるものにしてほしい。ワークショップという形にはこだわらないが、町民の意見をしっかり聞くという場面を作ってほしい。

委員

計画は約10か月後にできるということ。意見を聞くことができるように検討していただきたい。

例えば国等の白書というものは一部二部に分かれており、一部はいま大事だと思っていること、二部以降に施策がいろいろと書いてある。二部は総花的になるかもしれないが、一部に我々が“ここが重要である”ということを書いてはどうだろうか。

10年後の北広島町の姿としてこういうものをイメージ。そのために次の二部があるよという構成にしてはどうか。

事務局

イメージがまだ浮かばないが、検討させてほしい。

委員

今日の議論の中で、委員会としてこういうことを考えたというものを先頭においてはどうか。
検討いただき、事務局とも相談して、次回以降の委員会でまたご相談させていただけるように進める。

委員

基盤はすごく大事で、強い北広島町を作りたいと思う。災害があっても、みんなが普通に助け合っている。誰一人取り残さないという地域になっていけるような計画を立てていきたい。

5. その他

6. 閉会あいさつ

副町長

みなさんからいろんなご意見をいただきました。有意義な会だった。しっかり盛り込んだカタチで整理させていただき、また議論いただきたいと思う。

7. 閉会